

人の生きる傍らに

(日本エコツーリズムセンターHPより)

かつての日本では、誰もが一本の刃物を巧みに操り、暮らしに関わるさまざまな「モノ」や「コト」を作り出すことができました。

ところが、この半世紀ほどの間に社会の状況は一変しました。『判断力の未熟な子供からは刃物を遠ざけるべき』という風潮が定着すると同時に、先端技術やサービス産業の発達により、ひとりひとりが毎日刃物を使いながら暮らしをクリエイトする必要も薄れました。

刃物を使う習慣が日常から失われていった結果、子供たちの発達に関わる領域ではさまざまな変化が起きています。子供たちばかりか、刃物を使いこなすことを忘れた日本人は、もう2世代から3世代にも及びつつあります。

一方近年、子供たちの生きる力を高めることの重要性が、さまざまなところで叫ばれています。東日本大震災時のライフラインの途絶をきっかけに「生存技術」の重要性もクローズアップされています。

刃物は使い方によっては危険な道具ともなりますが、本来は優れた利便性を持つ道具です。

この連続セミナーでは、刃物と人間の本質的な関係を振り返り、刃物をめぐる現状と課題、刃物教育に関する各種の先進事例、専門家による教養・実技講座など、刃物を軸にしたテーマを幅広く取り上げていく予定です。

連続セミナー「教育と刃物」@東京



西表島の民具作りの達人
K.Hさん(祖納)愛用の
ヤマガタナと、手作りの鞘

頼れる相棒の復権を

NPO法人日本エコツーリズムセンターは、震災発生時に「RQ市民災害救援センター」を設け、日頃鍛えた機動力で被災者の救援にあたったチームです(西表黒糖を避難所に届けてくれたのもこのチームの皆さん)。

カマやナタなど、西表では手にする機会が多い「刃物」ですが、いまや都会においては持ち歩くことすらままならない状況です。しかし、いざという時に使いこなせてこそその道具、危険だからと恐れることなく、深く理解してつきあっていくことが、大災害に対処する基礎体力になっていくはずです。

遠い東京での開催ですが、賛同の心をこめてご紹介させていただきました。以下の日程で東京にお越しの方は、ぜひ訪ねてみてください。(レポートお待ちしております!)

- 開催日程: 毎月最終金曜日(予定) 19時~21時
- 会場: 日本エコツーリズムセンター(東京都荒川区)
tel 03-5834-7966 fax 03-5834-7972
JR西日暮里駅徒歩3分(日能研ビル2F)
- 参加費: 1500円(6回券割引8000円)
- 協力: ピクトリノックス・ジャパン株式会社

- 全12回スケジュール(予定)
- 第一回 6月28日(金)
人類と刃物ー考古学・文明学・身体科学の視点から
講師: 関根秀樹氏(原始技術史)
 - 第二部 17時30分くらふとで覚えよう! ナイフの使い方
巻部 19時~ トークセミナー「人類と刃物」
 - 第二回 7月26日(金)
銃刀法の現状とその影響
講師: 服部夏生氏
 - 第三回 8月30日(金)
子供と刃物1: ナイフメーカーの脳育教育の取り組み
講師: ピクトリノックス・ジャパン
 - 第四回 9月27日(金)
子供と刃物2: 冒険遊び場プレーパークでの刃物の役割
講師: 天野秀昭氏
 - 第五回 10月25日(金) 予定
子供と刃物3: 肥後守(ひごのかみ)で鉛筆を削る学校
 - 第六回 11月29日(金) 予定
子供と刃物4: 山村留学型自然学校の「暮らしと刃物」
 - 第七回 12月20日(金) 予定
子供と刃物5: 職人・教員養成現場における憂鬱と希望
狩猟とナイフ: 自然教育ソフトとしての解体技術
 - 第九回 平成26年2月28日(金) 予定
刃物ができるまで: 鉄と火と刃物の深い話
 - 第十回 平成26年3月28日(金) 予定
サバイバルとナイフ: 被災地での活躍事例から
 - 第十一回 平成26年4月25日(金) 予定
日本人と刃物(刃物が染いた驚嘆の手法と持続的暮らし)
 - 第十二回 平成26年5月30日(金) 予定
ふり返りパーティー「刃物を悪者にならないために」



MONTHLY

「東北に黒糖を送ろう! 大作戦しんぶん」改め
復興支援『すけさきた』
「すけさきた」とは
宮城県登米市あたるの言葉で
「ボランティアに来たよ」という
意味である

「すけさきた」とは
宮城県登米市あたるの言葉で
「ボランティアに来たよ」という
意味である

